

音響機器による汚染底質の広域探査技術 不攪乱試料採取技術 Pb 法による過去100年間の堆積速度の測定技術などを検討してきた。52年度以降にはこれらの調査技術を用いて3年計画により新しい特別研究 汚染底質堆積機構に関する研究を日本列島沿岸のそれぞれ異なる堆積環境の海域について実施する。52年度には温帯域の志布志湾・駿河湾をモデルフィールドとしてとくに堆積物の層厚分布・海底微地形・海中懸濁物・堆積物の構造・堆積物の物理・化学的諸性質を検討し堆積物の起源と堆積環境の変遷を明らかにすることを目的とした研究を実施中である。53・54年度にはそれぞれ亜寒帯域・亜熱帯域をモデルフィールドとした研究を計画している。

そのほか小規模ではあるが海底砂利に関する研究が海底砂利賦存状況調査として沿岸の水深数10mの比較的せまい範囲について45年度以降行なわれてきた。現在までに検討対象とした海域は九州北方沿岸域(50年度)九州西方沿岸域(51年度)沖縄本島西方沿岸域(52年度)である。それぞれについてとくに粒度組成物性海底地形第四紀地史との関係が検討されている。

第2表 刊行されたクルーズ・レポートと海洋地質図

クルーズ・レポート (Cruise Report) (英文 和文要旨付き)		
No. 1	深海底鉱物資源探査に関する基礎的研究 北西太平洋における昭和47年11月—12月航海調査報告 (1975)	
No. 2	五島・対馬周辺海域の海底地質調査航海報告 (1975)	
No. 3	GH74-1 -2調査研究航海報告—相模灘周辺海域 昭和49年4月 5月 (1975)	
No. 4	東部中央太平洋海盆に関する深海底鉱物資源の研究 (GH74-5研究航海 1974年8月—10月) (1975)	
No. 5	GH74-3研究航海報告—南方諸島 (伊豆・小笠原海域) (1976)	
No. 6	琉球 (南西諸島) 島弧 GH75-1 GH75-5次航海 1975年1月—2月 7月—8月 (1976)	
No. 7	日本海溝と干島海溝南域およびその斜面域の地質学的調査 GH76-2次航海 1976年4月—6月 (1977)	
No. 8	中東部中央太平洋海盆に関する深海底鉱物資源の研究 (GH76-1研究航海 1976年1月—3月) (1977)	
No. 9	西南日本外帯沖の海底地質調査 GH75-4次航海 1975年6月 (印刷中)	
海洋地質図		
No. 1	甕島周辺海域海底地質図	1=200,000 (1975)
No. 2	対馬—五島海域表層地質図	1=200,000 (1975)
No. 3	相模灘及付近海底地質図	1=200,000 (1976)
No. 4	相模灘及付近表層堆積図	1=200,000 (1976)
No. 5	琉球諸島周辺広域海底地質図	1=1,000,000 (1977)
No. 6	紀伊水道南方海底地質図	1=200,000 (1977)
No. 7	紀伊水道南方表層堆積図	1=200,000 (1977)
No. 8	西南日本外帯広域海底地質図	1=1,000,000 (1977)

・ 人 事 異 動

地質調査所では 11月1日付で次のとおり 人事異動が行なわれました

(氏 名)	(新)	(旧)
小林 勇	辞 職	地質調査所長
佐藤 茂	地質調査所長	地質調査所次長
磯見 博	地質調査所次長	地質調査所 海洋地質部長

大町北一郎	地質調査所 海洋地質部長	地質調査所 鉱床部長
岡野 武雄	地質調査所 鉱床部長	鉱床部 鉱物資源課長
沢 俊明	地質調査所 企画室長併任	鉱床部 鉱床研究課長

昭和52年11月1日